

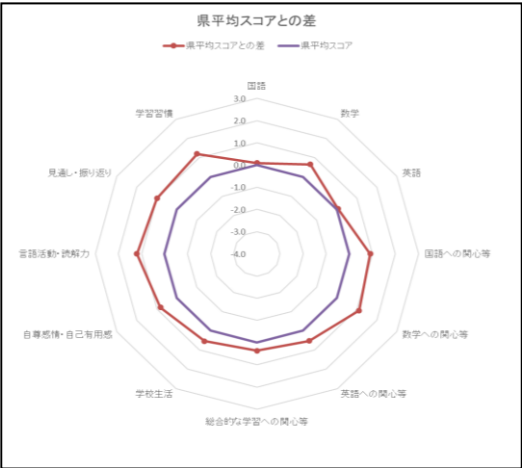
令和元年度 島根県学力調査結果及び分析・対策(松江市立鹿島中学校)

(1) 学力調査結果から見られた傾向

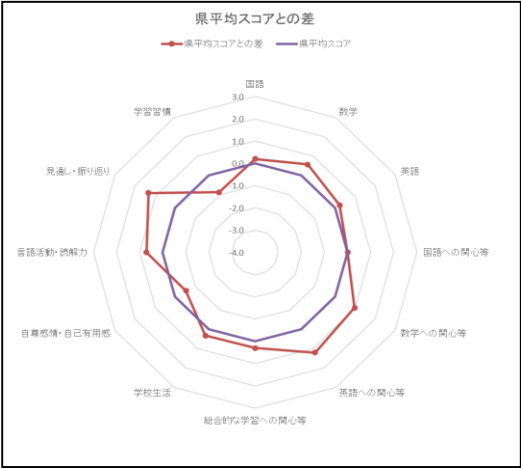
		成果と課題(○:成果、●:課題)	対策
1年	国語	○4領域のうち3領域において、県平均を上回った。特に書く力を問う問題の正答率が高い。 ●「話す・聞く」の領域は、他の領域に比べて正答率が低い。	・漢字小テストや短作文の学習を継続して行う。 ・相互にインタビューし合う活動や他者の発言を聞き取る学習を取り入れる。
	数学	○すべての領域において県平均を上回った。また、無回答率が低いことから、全ての問題に向き合っていることがわかる。 ●「指数と乗除の混じった式」や「1次式の分数の減法」の発展的な計算問題の正答率が低い。 ●「柱状グラフを読み取る問題」の正答率が低い。	・生徒の状況を見て、個で考える時間、ペアやグループで考える時間などの時間を設定する。 ・途中の式を書き、答えを導く過程を言葉や絵・図で表すことを多く取り入れる。 ・「資料の分析と活用」の単元では、既習事項を用いて学習し、他教科と連携し、グラフを読み取る問題を行う。
	英語	○「聞く」、「読む」領域においては県平均を上回った。 ○評価の観点の中で、「外国語理解の能力」、「外国語表現の能力」が県平均を上回った。 ●「書く」領域は県平均を下回った。問題について、記述式の形式がやや県平均を下回った。	・「書く」能力を高めるため、語彙・文型の確認と定着を図り、求められている状況に応じて英文を書く課題を設定する。 ・生徒の英文を添削し、間違いやすい表現について解説をすることで理解を深める。
2年	国語	○4領域のうち3領域において、県平均を上回った。特に読む力を問う問題の正答率が高い。 ●「話す・聞く」の領域は、他の領域に比べて正答率が低い。	・漢字小テストや短作文の学習を継続して行う。 ・他者の意見をもとに自分の考えをまとめて発表する学習を取り入れる。 ・文章を読んで自分の意見をまとめ、表現する機会を設けるなど、発展的な問題に取り組み、応用力を身につける。
	数学	○すべての領域において、県平均を上回った。特に、「数と式」、「関数」、「資料の活用」の領域の基本的な技能や、知識・理解が定着している。 ●与えられた条件を用いて説明したり、数の規則性について説明したりすることに課題がある。	・ペアで対話をした後に、個で考えを深める時間を設け、応用問題にも取り組もうとする意欲を育て、理解力を高めることにつなげる。 ・途中の式を書き、答えを導く過程を言葉や絵・図で表すことを意識させていく。
	英語	○すべての領域において、県平均を上回った。 ○評価の観点の中で、「言語や文化についての知識・理解」の正答率が高い。 ●評価の観点の「外国語表現の能力」が県平均より低く、対話や英文の内容を理解し、英語で答えたり、まとまった英文で書いたりすることに課題がある。	・ペアやグループ学習で、分からないことを聞き合い、説明し合うことで理解を深められる活動を取り入れる。 ・ALTとの対話をもとに、質問をし、適切な英語で答える場面を取り入れる。 ・書くことに対する抵抗を減らすために、ある程度まとまった英文を書く機会を増やす。

(2) 各学年・各教科の調査結果チャート

1年



2年



(参考) 平均正答率

		国語	数学	英語
1年生	本校	69	65	63
	松江市	69	52	64
	島根県	68	49	62

受検者数
1年生 41 人

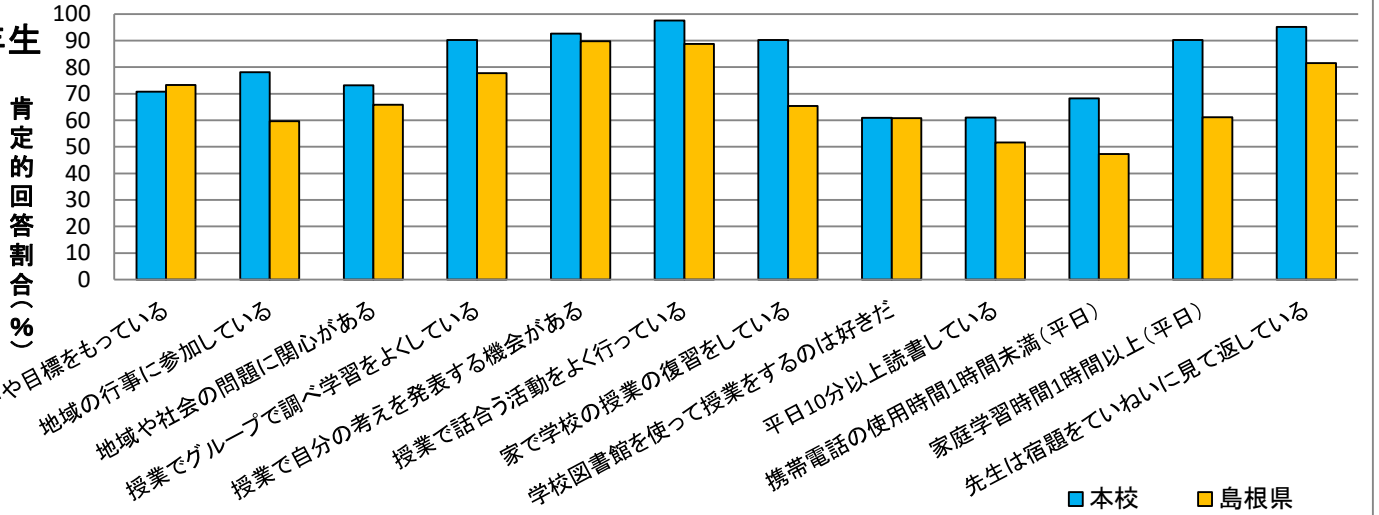
各スコアの範囲は-4から+3までで、島根県のスコアは基準値の0となっています。
スコアが0より大きければ大きいほど、島根県よりも「当該教科で平均正答率が高かった」、あるいは「当該カテゴリで肯定的回答が多かった」という結果になります。

(3) 生活・学習に関する意識調査から見られた傾向

		成果と課題(○:成果、●:課題)	対策
1年	授業改善に関わる事項	○調べ学習や話し合い活動など、いろいろな形態で授業改善を進めている。その結果、多くの生徒が自分の意見を発表する機会があると考えている。 ●学習に対する関心は高いが、数学に比べ、国語、英語の正答率が伸びていない。	・小テストを繰り返し実施する等、学習した内容を定着できるような取組を進める。 ・学級活動や総合的な学習の時間での学習内容と絡めて、将来のことを考えるための見方や考え方を広げる。
	家庭学習に関わる事項	○ほとんどの生徒が家庭学習に前向きに取り組んでいる。 ●家庭学習の中で、予習に取り組んでいる時間がやや少ない。	・毎日、家庭で行っている自主学習ノートの取組を継続して行う。また、その日の自主学習の目標を設定して取り組むよう促し、学習内容の質や量の向上を図る。
2年	授業改善に関わる事項	○調べ学習や話し合い活動など、いろいろな形態で授業改善を進めている。その結果、多くの生徒が自分の意見を発表する機会があると考えている。 ●話し合い活動は行っているが、国語の授業の中で、「うまく伝わるように話の組み立てを工夫している」生徒の割合が県平均と比べ低く、課題がある。	・自分なりの思いや考えをまとめ、その考えを伝える場面を積極的に設けることで学力の定着を図る。
	家庭学習に関わる事項	○教員が宿題をていねいに見て返していることに関する肯定的な回答が県平均を上回った。 ●家庭学習の時間が短く、復習に取り組んでいる生徒が少ない。 ●計画的に学習を進めることができていない生徒が多い。	・毎日の自主学習ノートの内容を見直し、よりよい見本を示しながら、自分のためになる勉強を時間をかけて取り組むよう指導していく。 ・家に帰ってからの時間の過ごし方を自分で決め、計画的に学習を進められるよう促す。

(4) 生活・学習に関する意識調査の結果

1年生



2年生

